

平成30年度第2回 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

石鳩岡神楽・土沢神楽調査委員会 会議録

1 開催日時

平成31年2月25日（月） 午後2時～午後3時45分

2 開催場所

花巻市石鳥谷総合支所3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 5名

中村良幸委員長（花巻市文化財保護審議会委員）

中嶋奈津子副委員長（佛教大学非常勤講師、日本民俗学会会員）

菊池康一委員（早池峰岳流石鳩岡神楽保存会長）

吉田隆一委員（早池峰大償流土沢神楽保存会長）

小原克仁委員（花巻市博物館主任主査兼学芸係長）

（欠席：川向富貴子委員）

(2) オブザーバー 2名

吉田純子 文化庁文化財第一課芸能部門文化財調査官

日向磨机子 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課主査

(3) 事務局（教育部文化財課） 4名

平野克則課長、村田豊隆課長補佐、大内典子主任主査兼文化財係長、川村優子臨時補助員

4 議題

(1) 石鳩岡神楽・土沢神楽伝承者アンケート調査結果について

(2) 平成30年度調査事業実施状況について

(3) 平成31年度調査事業計画(案)について

5 議事録

(1) 開 会（進行：村田課長補佐）

(2) あいさつ

平野課長：本日はお忙しいところ委員の皆様、そして文化庁の吉田調査官、県教育委員会の日向主査に御出席いただきありがとうございます。石鳩岡・土沢両神楽の調査につきましては、平成27年度より委員の皆様の御協力により順調に進んでおり、来年度はいよいよ調査報告書の刊行となります。本日の委員会は、神楽保存会のメンバーを対象に先日行いましたアンケートの調査結果の報告と、本年度

の調査事業報告、そして来年度の事業計画の検討をいただきますのでよろしくお願いたします。

(3) 報告・協議 (議長：中村委員長)

(委員長あいさつ)

中村委員長：御苦勞様でございます。石鳩岡・土沢神樂の調査委員会も何年かやっております、来年度には報告書の刊行ということになっております。皆様には御苦勞様ですが、来年度すばらしい報告書をつくり上げたいと思っておりますので御協力をお願いいたします。また、本日は吉田調査官、日向主査よろしくお願いたします。それでは報告協議の1、石鳩岡神樂・土沢神樂伝承者アンケート調査結果について説明をお願いします。

① 石鳩岡神樂・土沢神樂伝承者アンケート調査結果について

村田課長補佐から、資料No.1により石鳩岡神樂・土沢神樂伝承者アンケート調査結果について説明。

(協議)

中村委員長：今説明がありましたが、これは今ここでアンケートの回答のあった人から誰に話を聞くのかを決めるということですか。

村田課長補佐：そのとおりです。前回の会議では全員から聞くということにはならないだろうという話でした。回答の内容からさらに踏み込んで聞き取りをした方がよいということで、あとは実際に聞き取りをするのは調査委員で分担したらどうかということでした。今日は分担とか聞き取りの方法というところを御協議いただきたいと思います。

中村委員長：(石鳩岡神樂伝承者の回答から) 気になる方はいますか。

中嶋副委員長：他県からおいでになって一生懸命やっていたらっしゃる方、その方はあえて遠いところからいらしてなぜやっているのか、良いお話を伺えるのではないのでしょうか。あとは3ページのi Cの方。お父さんの代までの慣わしということを書いておられるので、お父さんから伝えられた話を伺えると思うし、i Eの方も(一ノ倉)保さんとか(小国)誠吉さんが存命のうちに神樂を共存できたと書かれているので、以前の貴重なお話を伺えるのではないかと思います。複数お話を伺えるのであれば、i H、i Iの方々は現長老に神樂を誘っていただいた状況ですので、その当時のこととか。特徴的といえば、「生まれて初めて神樂を観た時の感動を今でも覚えている」というのはすごく神樂に思い入れがある方ですし、i Iの方は神樂に対する思いを聞いてみたいと思います。

中村委員長：中嶋委員はi C、i E、i H、i Iの方ということですね。

小原委員：(アンケートは) 両神樂に何人に出して何人から回答を得ましたか。

村田課長補佐：石鳩岡神樂は13名にお願いして12名回収いただいて(後日残り1名から提出あり)、土沢神樂は皆さんからいただいたので、資料に載せている方が全てとなります。

中村委員長：他県から来ている人は、練習に来ていますか。

菊池委員：はい、来ています。

中村委員長：それであれば話を聞けます。書かれている内容からすると、この方たちが妥当でしょう。これだけの人から話を聞くとすれば、一人で行って調べるのは難しい、どこかで手分けするという形にならなければ聞き取りは難しいと思います。たぶん練習日に行って話を聞くのは無理で、何らかの時間をとって話を聞くようになるのではないかと思う。そこで、調査委員の中で手分けをしてこの人たちに話を聞く、あらかじめ質問を決めておいて、流れの中で聞きたいことを聞くというような・・。

中嶋副委員長：稽古の時はなかなか話を聞く時間がありません。話を聞くとすると2時間はかかるので、時間を取ってもらって話を伺いたい。

中村委員長：今ここで割り振りは難しいので、今出てきた方々から、どこかで時間を取ってもらう形で聞き取りを実施することにしたいので、その時には(保存会)会長さんに御協力をお願いします。なるべく御迷惑をかけないようにします。この5名の方にお話を聞いてまとめていく。今やられている方々が考えていることとか、どういうことを聞いているのか、どういう教わり方をしたのかということ報告書の中に入れていきたい。特に、教えられたきっかけとか、どういう教わり方をしたとかを含めて聞き、それを報告書に反映したいと思います。次に、土沢神楽を見ていただきたい。

中嶋副委員長：t Iの方は女性なのでお願いしたいと思います。いろいろなお師匠さんから教わっている点ではt Gの方。将来への不安を抱えていることもあるt Kの方は何歳ぐらいの方ですか。

吉田委員：20代です。

中嶋副委員長：身内でやっているという点で、非常に有効であると思います。かなり若い方とか中学生くらいとかであれば聞き取りは難しいと思いますが、そのくらい(20代)の方であれば、身内がやっているという点で面白い話が聞けると思います。もちろんt Aの方もです。もし余力があれば、「子供のころの練習が一番思い出になっている」というt Fの方もどうかと思います。土沢神楽は以前、時会長さんの時代に、昭和以降の時会長さんが若い頃以降のお話しを伺ったので、できればそれ以前の戦前のお話しですとか、年配の方にお話しを伺ってみたい。

中村委員長：去年、大償神楽の佐々木隆さんから話を聞いて、土沢神楽が戦後少し後継者不足でいなくなった時代、佐々木隆さんが一週間くらい泊まって教えたということを書いていました。それを覚えているのは晴山さんぐらいではないでしょうか。

吉田委員：ぎりぎり晴山さんぐらいだと思います。私は聞いていません。

中村委員長：吉田功さんが頼みに行き、時幹雄さんのお父さんたちが中心になって習ったということを書いていました。教えた方は詳しくは覚えていない。逆に晴山さんとか教えられた方が覚えているかもしれない。公民館とかでいろいろ教えたという話をしていました。それと教えられた方と2つのことを合わせると昭

和30年代くらいのことが分かるでしょう。

吉田委員：隆さんのお父さんの直見さんも来て教えられたと言っていました。

中村委員長：t I、t G、t A、t F、t Kの5人を中心に話を聞いて土沢神楽のまとめをしたい、これも委員の中で振り分けて聞き取りをしたいと思います。よろしくお願いします。あと、来年度の計画案になるかもしれませんが、この前話した平倉神楽とあと一つを加える。石鳩岡神楽の直弟子で、平倉神楽からは了解を得ているので聞き取りに行きたいと思います。石鳩岡神楽から弟子神楽へ教えているというところを加える。

吉田委員：土沢神楽にも江戸末期に伝えたという江刺の佐野向神楽があります。今は実質あまり活動ができない状況ですが、どなたか聞き取りができるか聞いてみます。

中村委員長：もし、覚えているとか話ができる人がいて聞き取りができるようであれば、教えていただいてそちらも加えます。佐野向ですね。佐野向の本家はやっていなくても、その弟子がいっぱいいる。

吉田委員：権現舞だけであればかなり広がっています。

中村委員長：江刺とか住田のあたりとか。

吉田委員：住田にはどこから伝わったか分かっていません。そこまでいくと広げすぎになる。

中村委員長：佐野向神楽を聞いてもらえれば。神楽はそれぞれ5人ぐらいずつ聞いて、それから弟子神楽の話を聞きます。今年度末から来年度初めまでに聞き取りをするということはどうでしょうか。

菊池委員：良いと思います。あと、一番の長老から聞いておいた方が良いと思います。

中嶋副委員長：石鳩岡神楽の部分（の原稿）を大まかに作ってみました。以前見せていただいた神楽衆の系図に抜けている部分があります。ずっと古い時代ではなく、（一ノ倉）保さんの前後の部分が抜けていると思います。そのところを確認させていただきたい。

中村委員長：土沢神楽さんはありますか。

吉田委員：良いと思います。

中村委員長：それでは、5・6名のところで話を聞いてまとめるということで行きたいと思います。せつかく（アンケートを）書いてもらったので、これらもまとめて現在やっている人たちの考えとして項をおこして掲載したいと思います。次に、報告協議の2、平成30年度調査事業実施状況について説明をお願いします。

② 平成30年度調査事業実施状況について

村田課長補佐から、資料No.2により平成30年度調査事業実施状況について説明。
(協議)

中村委員長：今、資料No.2を中心として説明をいただきました。これにつきましては、何か質問や付け加えることはありますか。

小原委員：記録映像の古い物はどのくらい古いのが集まりましたか。

村田課長補佐：先日、石嶋岡神楽さんのところにお邪魔してお話を伺ってきました。

今のところ20年ぐらい前のビデオをお借りしているのですが、デジタル化する方針として、それぞれの神楽の演目のある程度網羅できれば良いということで、演目が納められているビデオをお借りしてそれをDVD化する、ビデオの中でも極力古いものからということで調べ始めている状況です。古い物は遡ればありそうですが、ベータ版のビデオをお持ちの方もいらっしゃるので、演目を網羅することを目標にDVD化を進めたいと考えているところです。

中村委員長：昭和のものは結構あるでしょう。

村田課長補佐：あると思います。教育委員会で持っている映像を探したのですが、一部は今日添付している資料のリストにあります。旧東和町時代に撮ったであろうものがなかなか見つけられなくて、プロの方が撮ったものが東和図書館に何点か納められていることは確認しました。通常の郷土芸能の行事等で撮っているものは見つけられませんでした。これから保存会に御協力いただける分をお願いする方向です。

中村委員長：(資料リストの) 土沢神楽のビデオは結構ある。

吉田委員：でも、最近のもので。もっと古い物もありますが、カビが入ってデータがだめになっている。その他にもテープはあるが再生できますか。

村田課長補佐：オープンリールを変換するレベルの事業化はできなかったのも、まずは家庭用ビデオテープのところはデジタルに変換する仕様としています。補足ですが、資料の映像リストは、前回の会議(12月)の時点でも同様の資料をお付けしたのですが、その後、川向委員に県立博物館等に納められている資料などを調べていただいたものを合体させた資料になっています。前回の更新版と見ていただければと思います。

中村委員長：これに書籍も入るのか。

村田課長補佐：そうです。そちらも調べ始めていて図書館所蔵分はある程度把握できている部分はあります。まだ十分ではないので、リストの資料をお見せする段階ではありません。

中村委員長：質問とかありますでしょうか。

吉田委員：道具類で、江戸時代からの鳥兜を見せていなかったと思います。今のものより小ぶりで、2つあります。

中嶋副委員長：それは、土沢神楽で使っていたものですか。

吉田委員：たぶんそうだと思います。そのしまっていた兜箱の蓋らしいものと一緒にあります。それは天保何年、神楽仲間小頭と書いてありますけれど、古い物だと思ったから残していたと思います。

中村委員長：写真については、たぶん道具類は撮り残しているものがあると思います。神楽団体に確認してもらい追加していきたいと思います。古い道具類、古い行事の写真、白黒写真のところはまだ手を付けていません。先程の神楽のアンケートのところで持っている方がたくさんいましたので、随時確認しながらやりた

いと思います。

小原委員：舎文以外の文書資料はありますか。すべて判読していれば良いと思います。

中嶋副委員長：書付のような物とかですか。

中村委員長：石鳩岡神楽のものは、舎文の1枚は文字起こしをしました。

吉田委員：斎部流のとかは起こしましたか。

中村委員長：全部文字起こしをして、判読しました。これで狂言まで入れて60ページぐらいになる。これは面白い。特に、狂言のものは土沢で相当芝居が流行ったんですね。人形芝居のところが出てきますが、倉沢の説明のところ、土沢で盛んに芝居とかそういうものが行われていたという資料があります。あとは、小山田村史、東和町史の中から神楽に関係したところを抜き出したら15ページぐらいありました。四反田神楽の関係とか。

吉田委員：鏑八幡の山本摂津弟子、のところ。

中村委員長：それも入っています。弟子だということで、なぜ土沢とつながっているのかこれを見ると良く分かる。

吉田委員：菅原盛一郎さんが書かれたものは、あの方の想像で、弟子ではなくて神楽をやりたくて来た。

中村委員長：多分東和町史の方がちゃんと書いているだろう。これでだいたい100ページ位になります。これに、石鳩岡神楽で持っている資料を足せば、だいたいのところが入ると思う。

中嶋副委員長：お面の写真とかはありますか。

中村委員長：私が持っているだけで100ページあるので、その他に行事の類とか道具類の写真、アンケートとか入れたら300ページにはなると思います。どれぐらいの写真の大きさを載せるのか、メインだけ載せる。舎文とか載せるとかなりの量になります。

吉田委員：佐野向の舎文も聞いてみます。

中村委員長：もし、行って聞けるのであれば、その時に出してもらえれば写真に撮り起こします。

中嶋副委員長：弟子神楽の関連というところは兄弟弟子と考えました。石鳩岡神楽・土沢神楽のお弟子さん以外に同じ師匠、岳・大償から教わっているお弟子さんということで調べてきました。これをどこまで載せるかということが計画であがってくると思います。もちろん、両神楽のお弟子さんはいかしたら載せるとして、例えば土沢神楽の場合、後継者育成会で一緒に踊っている五大堂神楽とか星山神楽の話の聞いてきました。一つの団体について1ページの形に限定して掲載するとかしないとか、例えば石鳩岡神楽の場合は、岳の兄弟弟子は難しいので、直弟子という視点で浮田神楽を同じ師匠の関連で載せるのか、載せないのかということ以前から考えていました。鴨沢神楽の報告書を拝見したとき、すごく良くできていて、同じ師匠からの横列の弟子神楽としていました。どこまで載せたら良いでしょうか。

中村委員長：五大堂や星山の一緒にやっているところは載せるべきと思いますし、ページ数は少なくともこういう団体が活動しているということ載せるのは良いのではないかと思います。系統図を作ったところ、岳神楽系で80団体くらいあるので、せめて今活動をしているとか、同じ東和地内の神楽とかまでは紹介することで良いと思います。

中嶋副委員長：同じ師匠のつながりがある団体ということで、分量を決めて簡単に一目でわかるように掲載したら良いのかなと思いますがいかがでしょうか。

菊池委員：目合わせをした方が良いと思います。他から見た岳・大償と座中からの見方は違うと思うので。

中嶋副委員長：岳の系統は、石鳩岡神楽と浮田神楽の2つですが、座中の考えもあると思うので、両神楽の会長さんの意見も尊重したいと思います。

中村委員長：東和で今実際にやっている団体というと・・・

菊池委員：権現舞以外でできる場所は、4つ。社風流神楽も今やっているの。

中村委員長：ページ数をみながら、流れをみながら考えたいと思います。取材はしてあるので、加除をしながら。

中嶋副委員長：後継者育成と一緒にやっている団体を載せることについては、吉田会長さんはいかがでしょう。

吉田委員：委員長のお話のように検討しながらやることで良いと思います。

中村委員長：今の話のとおり、検討しながら進めたいと思いますが、できるだけ関連するものは入れた方が良いでしょう。それでは、事業報告はよろしいでしょうか。それでは3番目の事業計画についてお願いします。

③ 平成31年度調査事業計画(案)について

村田課長補佐から、資料No.3により平成31年度調査事業計画案について説明。

(協議)

中村委員長：250ページとなると内容を絞らないといけないと思いますが、体裁はこういうことですか。

村田課長補佐：12月の会議では300ページでお示ししていましたが、予算等の調整でこの分量に落ちていますが、今後の具体化する中で若干は分量に膨らみを持たせることは可能と思います。

中村委員長：舞の種類の写真だけでもかなりの点数になり、行事、道具類となるとかなりのページになるので、点数を絞るか、写真を小さくするなどしてやる必要があるかと。

村田課長補佐：可能であれば、画像資料をデジタル添付して印刷写真を抑える方法もあります。

中村委員長：デジタル併用は使いにくい面もある。

村田課長補佐：印刷仕様を早めに調整して、できるだけ分量を確保できるように努めたいと思います。

中村委員長：舞だけで30いくつあるとそれだけでかなりの量になるので、古い写真、

貴重な写真を優先して載せることも方法か。変わったところで公演したもの、例えば石鳩岡神楽であればヨーロッパ公演や伊勢神宮での写真もあるので、トピック的な写真は少し加えれば良いと思います。報告書の構成は、資料のとおりですが、原稿の1回目が7月。ここでボリューム調整をすることですか。

村田課長補佐：はい、ここである程度の分量の目処を立てたいと思います。

中村委員長：皆さん単体で作業されており、文章の体裁もバラバラと思いますので、それは調整が必要だと思います。それを調整して10月に最終ということですね。

村田課長補佐：はい。そして11月に委員会で最終原稿として、12月の印刷発注に漕ぎ着けたいと思います。

中村委員長：写真図版もこのときまでですね。図版の体裁も決めないと。あと、今後の予定ですが、両神楽の会長さんへお願いしなければならないのが、年表。わかるころまでの、例えば昭和20何年に何があったとか、そういうのはわかりますか。

菊池委員：大雑把なところはわかるかと思います。

中村委員長：遡れるくらい、例えば昭和30・40年代くらいから、町内の活動ではなく、県内とか海外とかの公演等大きなところで良いので、活動の状況をつけた方が良いと思いますので、年月日と公演のタイトル等の情報があればと思います。

中嶋副委員長：分量を抑えるということであれば、私が書いている原稿の中に、演目とか神楽衆の名前とか別項目で掲載されるものもあるので、重複するところは載せないとかの打合せも必要だと思います。

中村委員長：7月の原稿集約の時にすり合わせが必要になると思います。粗原稿でも良いので、集めて、そのときに重複を削り、体裁も決めたいと思います。事業計画案はよろしいでしょうか。（異議なし）

それでは、吉田調査官から御意見をお願いします。

吉田調査官：限られた予算と時間の中でこれだけの調査を進めていただきありがとうございます。資料が非常に充実しているように拝見しており、刊行の暁には地元で傳承されている皆さんに将来にわたり活用していただける内容になると期待しております。ページ数の制約があることですが、使い勝手はありますが、他の事例として図版、写真は報告書に載せて、他の資料はPDFにして添付することはございます。ただ、地元での使い勝手ということではどうかということもありますので、検討いただければと思います。また、補助事業での発行部数は300部と限定されております。刊行した後で、どのように見やすい形で公開していくかということも考えていただければと思います。文化庁では、直営で実施している変容の危機にある民俗文化財の記録作成推進事業で作った報告書は文化庁のホームページに掲載し全文を公開することを行っています。よろしくをお願いします。

(4) その他

吉田委員：関連資料として皆さんにお見せしたいものがありますので、会議終了後にご覧いただきたいと思います。（会議後に出席者で資料を実見した）

(5) 閉 会 (進行 : 村田課長補佐)